



1. アラスカ/ポイント・バロー(1980年 撮影:岡田淳子)
2. 潮の引いたベーリング海(1977年 撮影:岡田淳子)
3. リトル・ダイオミード島(米国)からビッグ・ダイオミード島(当時ソ連)を見る(1991年 撮影:高野孝子)

第22回特別展 環北太平洋の文化Ⅱ

世界で一番ダイナミックな海
ベーリング海に生きる人びと
舞台は極北のベーリング海
自然も文化も歴史もひとめぐり
チュクチもエスキモーもアリュートも
日本人も大活躍



復元バイダルカ



2007.7.14^[±] — 10.8^[月]

会場/当館特別展示室 休館日/10月1日[月]

開館時間 午前9時から午後5時

(10月は午前9時30分から午後4時30分)

特別展観覧料/小中学生無料 一般450(360)円 高大生150(120)円

※かっこ内は10名以上の団体料金

主催 北海道立北方民族博物館

助成 日本財団

協力 市立函館博物館 函館市北方民族資料館
高野孝子氏 津曲敏郎氏 岡田淳子氏 洲澤育範氏
中谷敏邦氏 永井佳代氏 北海道民族学会

後援 読売新聞北見支局 朝日新聞網走支局 毎日新聞報道部北見

北海道新聞網走支局 網走タイムズ社 NHK北見放送局

展示設計/五十嵐淳建築設計 バイダルカ復元/洲澤育範

映像制作/株式会社東京シネマ新社

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1 電話0152-45-3888 <http://hoppohm.org>



「このイベントは競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて実施します」

表紙写真 ビリケン(チュクチ)/高野孝子氏蔵



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

I ベーリング海的环境と歴史

ベーリング海域は古くから人や物がダイナミックに行き交った地域です。
人類がユーラシア大陸からアメリカ大陸へと渡った経路のひとつと考えられています。
ベーリング海は穏やかではありませんが、大陸棚が発達した豊かな漁場です。
18世紀以降は、ヨーロッパ人が毛皮を目的に進出してきました。

II ベーリング海に暮らす

ベーリング海域には、チュクチ、エスキモー、アリュートなどの民族が古くから暮らしてきました。
いずれの民族も、この地域に暮らすための技術を高度に発達させ、
適応してきましたが、ヨーロッパ人の影響で生活がかわってゆきます。

III 文化の回廊としてのベーリング海

ベーリング海域に暮らす民族のあいだには狩猟方法をはじめ、彫刻の技術、草製バスケットの利用、音楽、「ワタリガラス」が登場する民話などに様々な共通性があります。
一方で、この地域には異なる言語が多くあることが知られています。



ビーズ装飾付きパイプ/コリヤーク



トナカイ毛皮製衣服/チュクチ

IV ベーリング海と日本

ベーリング海は日本とも縁の深い海でした。
明治期以降、大勢の日本人がこの地域での「北洋漁業」に従事しました。



草製バスケット/アリュート



けん玉/コリヤーク

V ベーリング海に親しもう

ボードゲームやぬいぐるみ、あやとりであそびましょう。
復元カヤック「バイダルカ」も間近で御覧ください。

※所蔵先名のないものは当館蔵

ロシア

チュコト半島

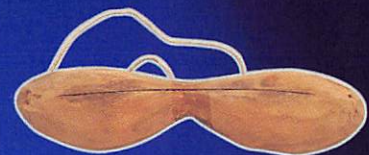
アラスカ

カムチャツカ半島

オホーツク海

ベーリング海

アリューシャン列島



雪眼鏡/エスキモー 明治大学政治経済学部蔵



ダンス用扇/エスキモー 明治大学政治経済学部